

前期バルク乳検査の成績について

令和6年5～6月に実施した管内酪農家33戸(36検体)の前期バルク乳検査(酪農生産性向上対策事業)の集計結果をお知らせします。

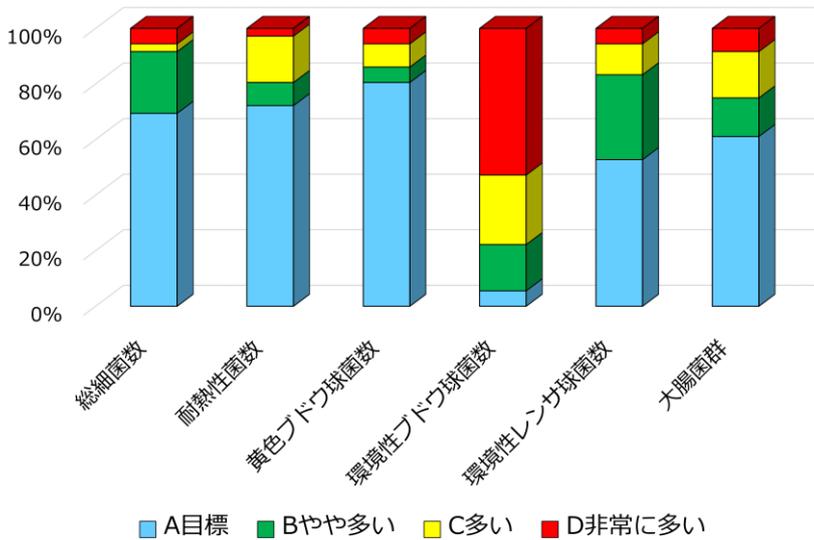
令和5年前期と比較して、黄色ブドウ球菌のB, C, D判定農家の割合が減少しました。しかし、環境性ブドウ球菌のB, C, D判定農家の割合が9割以上を占め、環境性レンサ球菌の割合も大きく増加しています。

無乳性レンサ球菌、BVDウイルス、マイコプラズマは全検体で検出されませんでした。

採材等にご協力いただきありがとうございました。

後期バルク乳検査もご協力をよろしくお願いいたします。

各細菌数の判定別農家の割合



R5年前期との比較(単位:%)*

項目 \ 年度	R6	R5
総細菌数	31	24
耐熱性菌	28	26
黄色ブドウ球菌	19	43
環境性ブドウ球菌	94	81
環境性レンサ球菌	47	29
大腸菌群	39	40

*BCD判定農家の割合

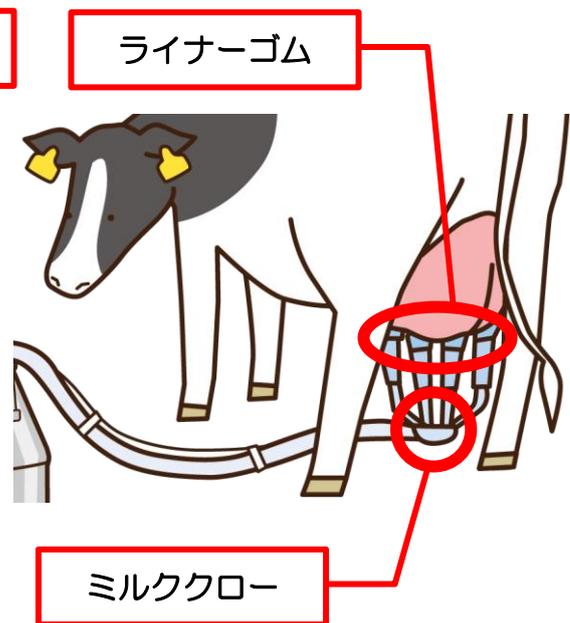
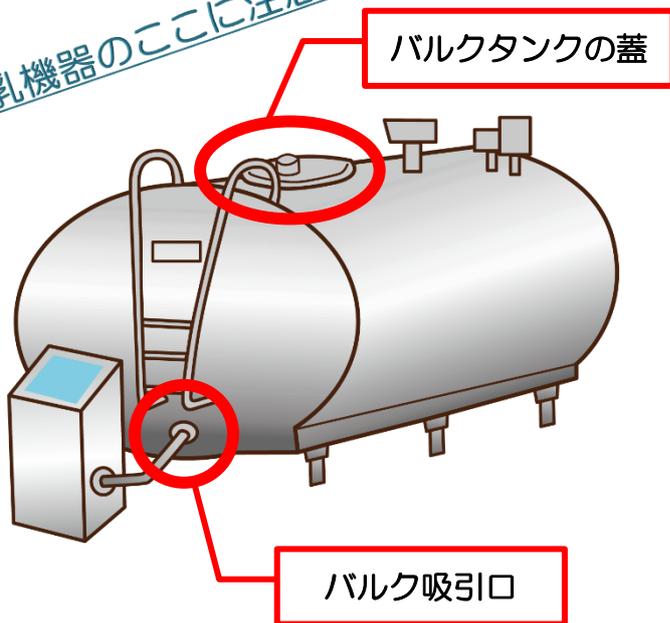
(参考) 判定基準(酪農生産性向上事業実施要領に係るバルク乳スクリーニング検査マニュアルより)

		判定基準			
		A	B	C	D
		目標	やや多い	多い	非常に多い
生菌数	CFU/ml	3,000 未満	~5,000	~10,000	10,000 以上
耐熱性菌		50 未満	~150	~500	500 以上
黄色ブドウ球菌		0	~100	~200	200 以上
無乳性レンサ球菌		0	~100	~200	200 以上
環境性ブドウ球菌		100 未満	~200	~400	400 以上
環境性レンサ球菌		700 未満	~1,200	~2,000	2,000 以上
大腸菌群		0	~100	~400	400 以上

乳房炎感染牛の特定や、搾乳方法の検討についてご相談等ありましたら、家畜保健衛生所までお問い合わせください。

搾乳機器に溜まりやすい汚れについて

搾乳機器のここに注意！



© 2020 Japan Dairy Council

汚れの種類と洗浄の方法

有機物（乳脂肪・乳蛋白・乳糖）

特に、乳脂肪と乳蛋白が機械内部に残留しやすく、乾燥して硬化すると洗浄が困難になり、細菌の格好の増殖場所となります。

洗浄にはアルカリ洗剤を使用し、洗浄中は水温を40℃以上に保つことが必要です。

ただし、すすぎ時の水温が60℃以上になると、乳蛋白が変性して落ちにくくなる可能性があるため水温管理に注意が必要です。

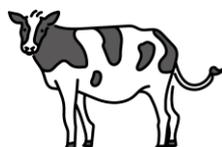
無機物（カルシウム、鉄など）

生乳に含まれる無機物のうち、カルシウム・マグネシウム・鉄が機械内部に沈殿しやすく、特に、カルシウムは乳蛋白と結合することで乳石とよばれる汚れを形成し、バルク乳中の耐熱性菌数を増加させます。

乳石が作られてしまう前に、40℃以上の温水に溶かした酸性すすぎ液または酸性洗剤を用いて洗浄を行うことが必要です。

毎日の自動洗浄の他にも、定期的な分解洗浄や手洗い洗浄、劣化しやすいゴム製部品の定期的な点検・交換を行い、汚れの付着を防ぎましょう！

しあわせ  信州



(問合せ先)
保健衛生課
神戸（課長）、岩本（担当）